

基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
平成17	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学として具体的かつ継続的に、教育の質の向上と授業内容及び教授方法の改善に取り組む体制が整備されており、改善効果を上げている。(長岡) ○ 学外関係者の意見を自己点検・評価に適切に反映させ、教育課程にフィードバックしている。(長岡) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業評価・学習達成アンケート調査結果をもとに、授業内容、教材、教授技術等の改善を継続的に行い、効果を上げている。(豊橋) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 全ての教科に対して学生の満足度を調査する為のオンライン授業評価システムを導入している。評価結果は、統計処理され全て学内向けウェブサイトで公開されており、問題点を共有するとともに個々の講義にフィードバックされているなど、継続的に教育カリキュラムの点検を行っており、改善に結び付けている。(はこだて未来) ○ チームティーチングやプロジェクト学習には優れたFD効果が認められる。(はこだて未来) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 卒業生や医療機関からの看護技術に関する調査結果に基づき、看護職者の教育・養成において重要度の高い看護基本技術向上のための看護基本技術修得プログラムを構築し、運用している。(大分県立看護) ○ 学生が受験する国家試験の模擬試験の結果を分析し、正解率の低い科目を公表し、より教育効果が上がる指導方法を検討するため役立てている。(大分県立看護) ○ 毎年定期的にアニュアル・ミーティングを実施し、教員の教育研究活動の学内での発表を通じて、学長、学部長が個々の教員の教育活動を評価し、必要に応じて随時個別に指導している。(大分県立看護) ○ 研究室を横断しての教員間の日常的な情報交換が建物の構造上可能となっているほか、大学院の学生に対する複数指導教員体制における教員間の打合せにおいても結果的に研究室を横断して情報交換を図る機会になっており、単科大学の特性を活かして、日常的な教育活動の中でFDが実施され、教育の質の向上や授業の改善に向けての役割を担っている。(大分看護科学) 		
平成18	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 21世紀教育(教養教育)では、授業科目を担当することに対するインセンティブを高めるため、担当に応じた研究費が配分されている。また、21世紀教育センターでは、授業内容や評価方法・評価結果に問題があると判断した場合、担当教員に改善の要請を行っている。(弘前) ○ 「授業方法改善のための学生による授業評価アンケート」の結果を活かすため、すべての担当教員に授業改革計画書を提出させ、組織的に授業改善につなげるシステムが開始されている。(弘前) ◎ 21世紀教育センターでは、全学的な「ティーチング・ポートフェリオの導入と活用」を取りまとめ、学内の導入等について検証を行っている。(弘前) ◎ 農学生命科学部では、各教員に「教員相互の教育評価自己申告表」を提出させ、また、自らの授業をビデオ撮影させ、自己点検させている。(弘前) ○ 技術職員2人が、平成16年度より大学院理工学研究科(博士前期課程)に在学し、修士の学位を取得している。(弘前) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全学共通教育については、学生のアンケート結果を基に優秀授業を表彰しており、その授業をビデオ撮影し、大学教育総合センターのウェブサイトで公開している。(岩手) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学期の半ばに中間評価を実施したり、同僚評価の結果を授業担当者にフィードバックするなど、独特の工夫がなされている。(秋田) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 教育方法の具体的な改善事例を『教養教育改善充実特別授業報告書』及び授業改善ハンドブック『あつとおどろく授業改善—山形大学実践編』などに紹介し、全学的な情報の共有を図っている。(山形) ○ 学外の専門会社に委託して、在学生、卒業生と受入企業関係者等に対するアンケート調査を行い、そこで指摘された学外関係者の意見を改善に活かしている。(山形) ◎ ワークショップ・FD合宿セミナー・公開授業などにより多角的にFDに取り組んでいる。(山形) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 定例FDセミナー、新任教員のためのセミナー及びベスト・ティーチャー表彰制度の受賞教員による講演会の開催など、大学教育センターを中心に学内のFD活動が活発に行われている。(東京農工) ○ 「教育改善支援プログラム」では、教育効果の高い活動や新たな教育活動プロジェクトを選定し、1件につき最高で150万円の助成が行われている。また、この成果は、学内GP報告会において学内への啓蒙が図られている。(東京農工) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学長主催のランチミーティングや副学長のオフィスパワー等によって、学長や副学長が学生と意見を交換する機会を設け、得られた意見を関係委員会で検討している。(京都教育) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 「教育の質を向上させるための学生ワーキンググループ」や学部の教育ワークショップへの学生参加など、教員と学生が協同で教育改善活動を実施している。(徳島) ◎ 全学共通教育センターで、「授業方法に関するアンケート」(中間アンケート)を実施することにより、集計結果をもとに当該授業での改善に結び付けている。(徳島) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 平成18年度から、医学教育のための新カリキュラム「MDプログラム奈良2006」を導入している。(奈良県立医科) ◎ 日本医学教育学会開催をファカルティ・ディベロップメントに結び付けている。(奈良県立医科) 		

基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 美術工芸学部・造形芸術研究科学生の各種作品と製作過程の映像記録、図録、音楽学部と音楽芸術研究科学生の演奏の録音・録画、理論系専攻における卒業及び学位論文関係の記録など、教育活動の実態を示すデータが丁寧に保存されている。(沖縄県立芸術)</p> <p>◎ 教員一人一人の授業改善記録が作成・集積されており、全学的規模の評価・改善のフィードバックシステム構築の条件が整備されている。(沖縄県立芸術)</p>		
<p>○ 看護教育の専門家である外国人教員の招聘によるFD活動の活性化を図っている。(沖縄県立看護)</p>		
<p>平成19</p>	<p>◎ 教育活動に関する資料・データ等は十分に蓄積されているが、その整理と系統的・継続的な分析を一括して行う体制の整備が期待される。(北見工)</p>	
<p>○ 学生による授業評価結果を、個々の教員の授業内容・方法の改善に結び付け、教育の自己点検・評価に適切に反映している。(東北)</p> <p>○ 全学教育に関する教育補助者に関して、TAの質の向上を図るために研修を義務付けている。(東北)</p>	<p>◎ 卒業生対象のアンケート調査を継続実施して、さらに教育活動の改善に結び付けてゆくことが望まれる。(東北)</p>	
<p>○ 学生の授業評価アンケート調査を年2回継続して実施し、その分析に基づいて授業改善に関する全学的な意見交換会を開催するとともに、学生参加により学生から直接意見を聴取する機会を設けている。(福島)</p> <p>○ 学生支援業務に関する学生アンケートを実施し、学生支援システムや職員対応満足度等を調査して、学生支援業務の改善に取り組んでいる。(福島)</p>		
<p>○ 工学部、普遍教育センターで刊行された教員ごと、科目ごとの授業評価改善報告書は、学生の評価を真摯に受け止めて授業改善に取り組もうとする姿勢が現れている。(千葉)</p> <p>○ 各部局で開催しているFD研修会で、いくつかの学部で、ベストティーチャー賞受賞教員等による講演会が実施されている。(千葉)</p>	<p>◎ TAの資質を向上するための努力は評価できるが、一定の資質を維持する全学的な仕組みの検討を期待する。(千葉)</p>	
<p>◎ 平成18年度の文部科学省大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育実践支援)「英語で開講する授業の国際水準化支援事業」により、海外の大学に教員を派遣しFD活動に役立っている。(東京外語)</p>		
<p>○ 学士課程教育の調査研究・開発を担当する大学教育研究開発センターにより、教育の実態に関するデータの収集・蓄積を系統的に実施するとともに、「全学情報化グランドデザイン」に則り平成18年度から全学教育データベースの構築を進めている。(一橋)</p> <p>○ 学士課程では、平成14年度以来、大学教育研究開発センターにより、授業アンケートが毎学期実施されているほか、6つの全学委員会によるアンケート調査が行われており、これらの結果はいずれも自己点検・評価報告書として公表され活用されている。(一橋)</p>		<p>◎ FD活動は、全学及び部局レベルのシンポジウム・研修会として着実に実施されているが、それらを通じてどのように教育や授業の改善が行われているかについての具体的な検証が不足している。(一橋)</p>
<p>◎ 大学教育総合センターの主導により教育改善についての全学的な取組が行われている。(横浜)</p> <p>○ 工学部・工学部に、教育プログラムの社会の要請する水準への適合性を外部の企業委員等が評価する諮問委員会IAB(Industrial Advisory Board)を設置している。(横浜)</p> <p>◎ 「横浜国立大学事務職員能力向上4カ年計画」を策定し、計画に基づく体系的な研修プログラムを実施している。(横浜)</p>		
<p>○ 全学教育機構、大学教育開発研究センターなどを中心に教育の質の向上、及び改善のための取組を、組織的に、かつ全学レベル、部局レベル、個人レベルそれぞれの局面に合わせて行っている。(新潟)</p> <p>○ 全学統一の様式で授業評価アンケートを行い、授業科目ごとに評価結果を学内に公表し、学生の満足度評価をもとに授業改善を図る体制を作っている。(新潟)</p>		
<p>○ 学生による授業評価アンケートの結果について教員に自己評価レポートの作成を求め、問題把握と自己改善の契機としている。また、自己評価レポートを学内限定ウェブサイトに掲載している。(上越教育)</p>		
<p>○ 工学部では卒業後3、6、10年が経過した卒業生全員を対象とした達成度評価アンケートが毎年実施されており、その結果は「総合評価と今後の対策」という形でとりまとめられ、教育改善に活用されている。また、医学部保健学科でも、同様の取組が行われている。(金沢)</p>		<p>○ 学生アンケート結果の学生への公表が十分に行われていない。(金沢)</p>
<p>◎ 「英米大学に学ぶ社会人基礎力教育プログラム」が、平成19年度文部科学省大学教育の国際化推進プログラムに採択されている。(信州)</p>	<p>◎ 学生による授業評価を行い、その結果を授業の改善に活用しているが、回答率の向上に向けて更なる工夫が期待される。(信州)</p>	
<p>◎ 学生による授業評価アンケートの分析などを踏まえて、『教養教育 こんな授業を受けたい「ベスト10集」』を作成し、授業改善に活用している。(岐阜)</p> <p>◎ e-learningを活用した授業支援システムAIMS-Gifuは、授業改善にも有効利用されている。(岐阜)</p>		
<p>○ 医学科では、教員だけでなく、学務部職員、さらには学生TAも含めた全学的なPB Lチュートリアル教育に的を絞ったFD活動を精力的に実施している。(浜松医)</p>		

基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 平成16年度に「教員の自発的な授業改善の促進・支援—授業支援ツールを活用した授業デザイン力の形成—」が文部科学省特色G P に採択され、授業改善の必要性に対する教員の意識が高められている。(名古屋)</p> <p>◎ 文部科学省大学教育の国際化推進プログラム海外先進教育実践支援では、平成18年度に「FD活動の国際化による大学教育の質的向上—世界先進大学との連携教育プロジェクト推進のための海外・国内FDサイクルの構築—」が採択され、海外の大学におけるFD研修プログラムへの参加などを通して教育改善の様々な取組を推進している。(名古屋)</p>		<p>○ 大学院教育における授業評価等に関しては、大学院教育にふさわしい評価の項目や実施方法に関して、さらなる検討が必要である。(名古屋)</p>
<p>◎ 同一授業で2回のアンケートを実施し、学期の途中でも授業改善ができる仕組みを導入している。(愛知教育)</p>		
<p>○ 平成16年度から卒業生・修了生及びその就職先を対象に、大学での教育が妥当で社会のニーズに適合しているかを検討するためのアンケート調査を全学的に実施し、改善に資している。(三重)</p>		
<p>○ 平成16年度に「相互研修型FDの組織化による教育改善」が文部科学省特色G P に採択され、全学、部局、教員レベルでの様々な相互研修プログラムを行ってきたものを、さらに発展させ、自主的な相互研修型FD活動を全学レベルで組織化しようとする取組が実施されている。(京都)</p>		
<p>◎ 学生FD委員会を設置し、学生をFDの企画段階から参画させ、教員と合同のFD事業を推進している。このことにより教育の質の向上や授業の改善の効果を高めている。(大阪教育)</p>		
<p>◎ FD活動の一環として、学生に自らが受けてみたいと感じる授業を提案してもらう「あったらいいな！こんな授業」が行われ、学生と教職員とが交流して教育改善に取り組んでいる。(和歌山)</p>		<p>◎ FD活動にあたる教員が固定化され、それ以外の教員の参加が不十分な傾向が見られる。(和歌山)</p>
<p>◎ 文部科学省特色G P において、平成17年度に「新機軸『学生参画』による教育改善システム」が採択され、「学生参画型教育改善」を実施している。(岡山)</p>	<p>◎ 優れた取組を実施しているFD活動の更なる充実を期待する。(岡山)</p>	
<p>◎ FD活動が授業改善に焦点化され、それを実現するために「授業公開」、「授業研究会」、「ワークショップ」などが実施され、また、学部・大学院の授業改善研究の成果が研究論考集にまとめられている。(鳴門教育)</p>		
<p>○ 教育の高度化・活性化を推進するために教育コーディネーターを配置し、その活動を支援するため学長裁量経費による「愛媛大学改革促進経費(愛媛大学G P)」を創設している。(愛媛)</p> <p>○ 教員の自己評価の中から部局で特色のある事例を集め、「教員の実績ハイライト」として公表している。(愛媛)</p> <p>○ FDに関するさまざまな研修等を実施して、学生による授業評価アンケート(共通教育全科目平均)における授業改善度・満足度に対する肯定的意見の割合を、平成14年度の60%台から平成17年度の約80%まで上昇させている。(愛媛)</p> <p>◎ 教員、教育支援者(事務職員や技術職員)、TAなどの教育補助者が一体となって能力開発に取り組む教育の質の向上を目指す能力開発プログラム「FD/S D/T A D三位一体型能力開発」を全学的に実施している。この取組は平成18年度文部科学省特色G P に採択されている。(愛媛)</p>		
<p>○ 「大学評価情報システム」により、教員の教育研究等の活動に関するデータを、高い入力率で組織的に収集・蓄積している。(九州)</p>		<p>○ 一部の大学院教育において、FD活動の遅れが見られる。(九州)</p>
<p>◎ 平成19年度に文部科学省学生支援G P に「学生が自ら育む人間関係力醸成プログラム」が採択されている。(長崎)</p>		
<p>○ P D C A改善システムを整備しFD担当組織が中心となり教育改善を行っているほか、教育文化学部、工学部、農学部では、各教員に授業の評価と次年度の改善点をまとめた授業点検シート等の提出を求めている。(宮崎)</p>		<p>◎ 研究者データベースの整備が遅れている。(宮崎)</p>
<p>◎ 水産学部は、I S O 9001に基づく教育システムにより、学生の満足度を重視して、教育プロセスの継続的改善を図っている。(鹿児島)</p>		
<p>○ 学生による授業評価や教員自身の評価をもとに、各教員が授業改善を図った点について、自己点検レポートを作成している。(鹿屋体育)</p>		
<p>○ クラス指導主任制度やオフィスマナー等により、学生の意見・要望を聞く機会を設け、改善に反映させている。(大妻女子)</p> <p>◎ 家政学部と人間関係学部で実施されている実習現場(就職先)の担当者と担当教員との意見交換が、指導方法の改善だけでなく、国家試験の合格率の上昇に役立っている。(大妻女子)</p> <p>◎ 公開授業、研究授業及びチームティーチングなど、FD効果のある取組を行っている。(大妻女子)</p>		
<p>平成20</p> <p>○ 外部評価に基づき、リテラシー教育科目の英語科目を6単位から8単位に強化、習熟度別クラス編成、T E S O L 有資格教員による教育体制の構築など英語教育の改善に取り組んでいる。(宇都宮)</p>		
<p>○ 「教員の個人活動評価データベース」の教育の改善実績の項に、各教員が記入した授業改善の事例の内容をFD委員会で検討し、報告書に公表するなど改善に向けた継続的取組を実施している。(東京海洋)</p>		

基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<ul style="list-style-type: none"> ○ T Aの実施に当たっては、全学的な「神戸大学ティーチング・アシスタント実施要領」を定め、その中でオリエンテーション等の研修を義務化している。(神戸) ◎ 学生と教員で双方向的な授業評価アンケートをシステム化して実施している。(神戸) ○ 学生の卒業時・修了時に、在学中の教育効果についてアンケートを実施し、教育現場にフィードバックしている。(神戸) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 教育の質の向上とその改善のためのシステムとして、データ収集、学生の意見聴取、学外関係者からの意見活用、評価結果のフィードバック、教育課程の見直し、各教員の教育の質向上のための努力、F D、S D等が全学を挙げて行われており、実効を上げている。(国際教養) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ リアクションペーパーを、非常勤講師も含め全学で実施しており、学生からの意見、質問に対して教員が回答するとともに、配付資料や授業方法の改善等に学生の意見を反映している。(神奈川県立福祉) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学科等において分野の特性に応じたきめ細かいF D活動が必要である。(神奈川県立保健福祉) 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 全学共通教育については、大学教育研究センターが主導的役割を担い、教育改善に努めている。(大阪市立) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 教員が自己点検評価票を作成し、授業公開、相互評価、チーム・ミーティングなど、日常的に教育力向上に努めている。(宮崎県立看護) ◎ 多くの授業で行われているチーム・ティーチングは、教育効果があるとともに、F D効果も大きい。(宮崎県立看護) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 各教員は、学生による授業評価結果を教育の質の向上に活用するため、自分の授業に対する学生の評価へのコメントを学生による授業評価の報告書に記している。(日本社会事業) ○ F D協議会が毎月1回学部教授会終了後に開催され、多くの教員が参加している。(日本社会事業) ◎ 教養科目を中心に、一部の専門科目をも含め、教員相互による授業参観及び参観後の対談が行われ、メンター(助言者)・トライアルと称されている。その結果はF D協議会に報告され、共有されている。(日本社会事業) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士などの実習先施設の実習担当者、就職先の人事担当者及び卒業生からは、意見交換会・懇談会・アンケートなど、多様な機会を通じて詳細に意見を聴取しているが、これらの集約・分析・公表の方法については、更なる工夫を期待したい。(日本社会事業) 	
		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 四半期報告書や全体ゼミナールなどは優れた取組ではあるが、学生の意見を取り入れるためのシステムとしては十分に機能しているとは言いがたい。(光産業創成)
<p>平成21</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 全学教育科目及び専門科目の成績分布を集積するとともに、ウェブサイトを通じて公開している。(北海道) ○ T Aを大学教員の養成に向けたシステムの一環と捉え、『北大T Aマニュアル』を作成して研修に取り組んでいる。(北海道) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 全学的なF D組織として教育開発センターを設置し、組織的、継続的に活動しており、教育の質の改善のために実質的に機能している。(小樽商科) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 平成21年度に「初年次からの食のリスク管理教育プログラム」が文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」に採択されている。(茨城) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 充実した内容をもつ『教員用 授業ハンドブック』を作成しているが、今後の更なる活用が期待される。(埼玉) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学部前期課程ではU T a s k - W e b を、学部後期課程及び大学院課程では、U T e m a t e を構築し、学籍、履修登録状況、成績等を一元的に管理し、教育活動の実態を示すデータを蓄積している。(東京) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生による授業評価アンケートの結果を教育の質の向上や改善に積極的に活かしている。(東京医科歯科) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 大学教育のうち「リーダーシップの発掘」に関する卒業生及び企業からの評価に基づいて企画され、平成20年度文部科学省学生支援G Pに採択された「[出る杭]を育てる～企業で女性が輝くための学生支援～」等により、学生のリーダーシップ育成を進めている。(お茶の水) ○ 政策課題対応経費「国際規格のF D戦略」により海外から教員を招聘し、英語の専門教員の講義及び授業参観、講演会などを実施している。(お茶の水女子) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 卒業生・修了生や卒業生(修了生) 受入企業の意見を組織的に収集し、さらに外部評価委員のアドバイス等を生かして、大学改革を進めている。(電気通信) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 競争的配分経費として「教育に関する評価経費」を設置し、優れた教育活動・改善に対して財政的支援を行い、教材開発等を推進するための「教科書等作成推進費」を設け、学内の優れた教材開発等プロジェクトを支援し、G P等の獲得に結び付いている。(福井) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ シラバス内容改善に関する冊子『科目デザイン設計』を刊行し、それに関する説明会を開催している。(名古屋工業) 		

基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 学生による授業アンケート等を、FD事業報告書として毎年公開し、特に重要な教育上の課題については、全学教育改革フォーラムでの報告や教育改革広報誌『s u r l (スール)』の公開等を通じて全教職員に公表し、問題の共有化を図っている。さらに、教育改善の取組や先進的な教育経験の交流を目的として、全学教育改革フォーラムを毎年開催し、学生の参加も可能にしている。(滋賀)</p>		
<p>◎ 学生による授業評価に加えて、滋賀大学教育学部教員による第三者授業評価が行われている。(滋賀医科)</p>		
<p>◎ 教養教育において優れた授業を実践した教員などを表彰する制度を設け、表彰された教員の模擬授業を公開し、授業方法を本にまとめてFDの教材にするなど、教育の質の向上に努めている。(大阪)</p>		
<p>○ 各種FD事業の報告書、授業評価アンケート報告書を、教職員に配付するだけでなく、図書館に置いて学生の閲覧に供している。(奈良教育) ○ 学部でも大学院でも、授業交流会やパネルディスカッションなど、教育の質の向上や授業の改善に結び付く積極的なFD活動が展開されている。(奈良教育)</p>		
<p>○ 「地域医療教育シンポジウム」を開催し、地域医療の問題点を地域住民に提示している。(島根) ○ 教育開発センターを中心に相互研修、学生参画、情報共有、大学間連携をFDの4つの柱として全学的に取り組んでいる。(島根) ◎ 文部科学省特別教育研究経費によって、学生の評価も加味したFD活動を組織的に展開している。(島根) ○ 初修外国語科目を対象に成績のクラス平均を数値で表すGPCAにより、共通の指標で他の授業との比較を行うことを可能としている。(島根)</p>		
<p>◎ 到達目標型教育プログラムにおいて、各主専攻プログラムにプログラム担当教員会を設置し、プログラムの策定、実施、点検・評価、改善を行っている。さらに教室の教育評価委員会において、提出された年次報告書を基に各主専攻プログラムの実施状況を把握するとともに評価を行い、問題点等がある場合には関係学部と担当教員会に指摘して、教育の質の向上を図っている。(広島)</p>		
<p>◎ 個々の教員の授業改善を、「教育情報システム(IYOCAN)」、あるいは「医学教育総合電子システム(e-YUME)」を用いて、教員と学生が双方向のコミュニケーションをとる中で授業内容、教材、教授方法等の質の改善を図っている。(山口) ○ 経営協議会の学外委員が、当該大学共通教育授業科目「知の広場」の学外講師として講義を行っている。(山口)</p>		
<p>◎ 「卒業生等による大学教育評価アンケート調査」を行い、その結果を報告書としてまとめるとともに、授業改善に活かしている。(香川)</p>		
<p>○ 「福岡教育大学・宗像区小中学校合同研究会」を開催し、大学、小中学校、教育委員会から約130人の参加の下、教員養成教育の内容・方法の改善のための連携方策について意見交換を行っている。(福岡教育) ◎ 事務職員の資質向上のため、学部授業(教職科目)を聴講する制度を実施している。(福岡教育)</p>		
<p>○ 新しい授業方法を考えるための教員のためのウェブサイトとして開設されているKU:TOを活用して授業改善に努めている。(熊本)</p>		
<p>◎ 学生と教職員が意見交換を行う、学生参加型の学内合同研究会「きっちよむフォーラム」の開催をはじめ、ワークショップ形式や講演会形式など多様な形式でのFDを実施している。(大分)</p>	<p>◎ 卒業生及び修了生の能力及び教育効果に関わる社会調査を実施し、教育内容の改善を進めているが、更にこの種の調査結果を積極的に活用し、教育改革へとつなげることが期待される。(大分)</p>	
<p>○ 海外FD研修及び3研究科合同の国際FD研修会を実施し、教員の教育技能の向上を図り、海外の大学の教育方法を組織的に取り入れている。(奈良先端)</p>		
<p></p>		<p>○ 教育支援者及び教育補助者に対しては、実務研修を事務職員が行い、各学部・学科の教員の指導も随時受けられる体制となっているが、資質向上の観点からは十分な対応とは言えない。(群馬県立女子)</p>
<p></p>		<p>◎ FDに関する大学としての取組が十分とはいえない。(前橋工科)</p>
<p></p>	<p>○ 講義型のFDセミナーや教員参加型のFDワークショップ、ピア授業参観制度を導入するなど、FD活動に努めているが、教育の質の向上を図るため、FD活動の更なる実質化が期待される。(大阪府立)</p>	
<p>◎ 教員の相互授業参観を全学的に実施し、実施率や参観率が非常に高く、詳細な報告書が作成され、実質的に機能している。(岡山県立)</p>		

基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	<p>○ 各学部・研究科の教育分野や特性に対応するため、各学部では、それぞれ独自の規程を策定してFD活動を展開し、多くの教員が参加している。(高知女子)</p> <p>◎ 平成20年度には、当該大学が他の34大学・短期大学と共同申請した「四国地区大学教職員能力開発ネットワークによる大学の教育力向上」が文部科学省の「戦略的・大学連携支援事業」に採択された。この事業では、ネットワーク加盟校が協働しながらFD・SDのプログラム開発や、教育業績記録、職員業績記録の開発、ファカルティ・ディベロップメント(F D e r)の養成を目指しており、現在は先駆的な取組の現地調査などに取り組んでいる。(高知女子)</p>	<p>◎ 学部では、それぞれ独自の規程を策定してFD活動を展開しているが、全学的交流による相互学習を促進するためには、全学的な教職員集会やシンポジウム方式の導入が期待される。(高知女子)</p>	
平成22	<p>○ FD特命教授を置き、FD委員会を中心に講演会、研修会等活発なFD活動を行い、その結果を教育の質の向上及び改善に反映させている。(北九州市立)</p>	<p>○ 卒業生や就職先企業等からの組織的な意見聴取が行われているが、その取組に一層の努力が期待される。(北九州市立)</p>	
◎	<p>卒業(修了)生等に対するアンケートの結果、「基礎キャリア教育」を講義して、就業力の育成に取り組んでいる。(帯広畜産)</p>		
		<p>○ 「学生による授業評価アンケート」は開始直後であるため、調査内容等の改善、及びそれを基にしたFDの実施など、更なる充実が期待される。(東京芸術)</p>	
○	<p>教育の成果を検証・評価するため、学生に対する授業アンケートや教育プログラムアンケートのほか、個々の教育プログラムについての外部評価の実施、奨学金支出機関等によるプログラム・アセスメント等、教育に関する成果を検証・評価する仕組みを複数設けている。(政策研究)</p>		
○	<p>専攻(コース)会議を頻繁に開催し、その中で、学生に関する教育情報を共有し、組織的に教育の改善に努めている。(愛知県立芸術)</p>		
			◎ FD/S D活動が不十分である。(名古屋市立)
◎	<p>「授業コンサルティング」、「当日ブリーフレポート」、「レスポンスペーパー」等の全学的取組、環境科学部における「環境フィールドワーク」の設置、ファカルティ・ディベロップメントの一環として優れた授業方法や効果的指導法を共有するための「人間探求学研究会」等、教員の授業改善に向けた積極的な取組が実施されている。(滋賀県立)</p>		
			◎ 学生による授業評価を実施しているが、医学科では、実施授業数が少ない。また、看護学科では、実施結果のとりまとめが遅れている。(京都府立医科)
○	<p>学生及び同僚・上司による授業評価を実施し、評価結果を公表するとともに、教育の質の改善に活かしている。(九州歯科)</p>		
◎	<p>個々の科目のシラバスに「授業改革の試み」という項目を設け、授業改善を促している。(九州歯科)</p>		
○	<p>組織的にFD講演会・研修会を数多く実施し、教育の改善に努めている。(九州歯科)</p>		
◎	<p>平成21年には、教員と学生が共同執筆した全学共通科目/基礎科目(学部1年次)「教養演習」のテキスト『レポートの書き方入門2009年度版-教養演習テキスト』を発行し、教員のニーズと学生のニーズとのマッチングを図っている。(福岡県立)</p> <p>◎ 平成21年度において、学部教育のFDとして、きめ細かい学生座談会の実施を含む4種類、大学院教育のFDとして、アンケート結果報告を兼ねた6種類に達する多様なFD活動が実施されている。学部教育のFD活動には、このほか、他大学のFD活動への教員派遣や文部科学省「大学教育充実のための戦略的・大学連携支援プログラム」に採択された「看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想」のセミナーへのファシリテーター派遣が含まれる。(福岡県立)</p>		
◎	<p>多様で実効あるFD活動が行われている。(福岡女子)</p>		
◎	<p>各学期に2回の授業アンケートを実施し、結果を授業改善に活かしている。(福岡女子)</p>		
◎	<p>新任の看護教員への指導にサポーター制度を導入している。(大分県立看護)</p>		
◎	<p>各科目群(研究室)では、教員間の意見交換が日常的に行われており、FD活動が実質的に機能している。(大分県立看護)</p>		
○	<p>海外短期派遣制度や国内研修派遣制度を利用する教員が多く、教員や教育の質の向上に配慮している。(大分県立看護)</p>		
○	<p>平成21年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的・大学連携支援プログラム」採択の「看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想」連携校として参画し、FD企画に参加している。(大分県立看護)</p>		
◎	<p>アニュアルミーティングを開催して、教育研究活動の活性化に努めている。(大分県立看護)</p>		
◎	<p>非常勤講師も含めて、多様で実質的なFD活動を実施している。(大阪女学院)</p>		
平成23	<p>○ 学生による授業評価アンケートや教員相互の授業参観等の結果を、教員にフィードバックし授業改善に役立てるとともに、FD・SD企画室において検証している。(筑波技術)</p> <p>◎ FD・SD企画室が中心となり作成した『筑波技術大学FD・SDハンドブック-聴覚・視覚障害者の修学のために-』を全教職員に配付し、教育能力の向上を図っている。(筑波技術)</p>		

基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>◎ 情報環境を利用したオンラインの授業評価システムは、学生からの評価データ提示にとどまらず、教員側からそれに対するコメントができる点で双方向性を有しており、授業改善に有効活用されている。(はこだて未来)</p> <p>◎ 異分野の教員が組になって指導に当たるチームティーチングを導入し、教育効果を上げるとともに、教員の教育力向上にも役立てている。(はこだて未来)</p>		
<p>◎ 看護学部では、領域ごとに授業終了後にアフターセッションを行っており、授業の改善につなげている。(群馬県民健康科学)</p>		
<p>◎ 学生の授業評価アンケートの結果をレーダーチャート表示し、自由記述とともに教員別・科目別に整理して『愛知県立大学FD活動報告書』として公開することにより、授業改善に資している。(愛知県立)</p>		
<p>○ 毎回の授業への感想、疑問点を記載させるために大学が用意した様式を個々の教員が活用して、学生からの意見聴取とフィードバックを行い、授業の改善に役立てている。(県立広島)</p>	<p>○ 学期の途中で実施し、その結果を直ちに授業の改善に役立てるための「中間評価」のアンケートの全学統一様式を定め、相当数の授業において有効に活用されているが、多くの授業で活用されることが期待される。(県立広島)</p>	
<p>◎ 毎年度末、全教員に対して「学園長へのレター」の提出が求められ、自己の教育改善の報告とともに、組織的なレベルでの対応が必要な提案も行われており、それらについては学長より随時学部長・学科長会や教授会に報告・提案されている。(聖徳)</p> <p>○ 授業アンケートの結果は毎年度『明日の教育を目指して』として刊行し、授業改善に活かされている。(聖徳)</p> <p>◎ 専任教員に年2回の授業参観を義務付け、「一般公開授業報告書」を作成する過程を通して、教育指導方法の改善が行われている。(聖徳)</p>		